

— 南総地区の人口 —
 人口 21,677人
 男 10,942人
 女 10,735人
 世帯数 10,194世帯
 令和2年12月1日現在

ふれあい

地域で守ろう『福祉のまち、南総』

編集 南総地区社協
 広報委員会
 発行責任者 地区社協会長
 児井敏雄
 事務局 南部エリア推進
 センター内
 電話 92-1481

会長あいさつ

「コロナ禍における地区社協の役割」

あけましておめでとうござい
 ます。皆様も親しい方々と一緒に
 新年を祝うこともままならず、
 満たされない日々をお過ごし
 のことと思います。昨年より世界的な流行となっ
 ております新型コロナウイルス
 ス感染はまだまだ終息に至って
 おりません。

地区社協では令和二年度の
 行事計画に對しまして多くの
 事業を中止もしくは延期の処
 置をとらせていただきました。
 認知症サポーター養成講座
 およびその他事業は三密を避
 ける対策を講じながら徐々に
 再開いたしております。

九月以降のいきいきサロ
 ンは給食の提供はできませんが
 高齢者の閉じこもりを少しで
 も回避できるよう茶菓等で実
 施いたしております。

三月までの残りの事業計画
 についても最大限の注意を払
 いながら実施していきたくと
 思っております。

私どもはこの見えない敵と
 も思えるウイルスとはまだま
 だ長い戦いをしなくてはなら
 ないでしょう。

感染を防ぐためには人との
 接触を避けることは有効です
 が、いつまでも閉じこもり続
 けることはできません。

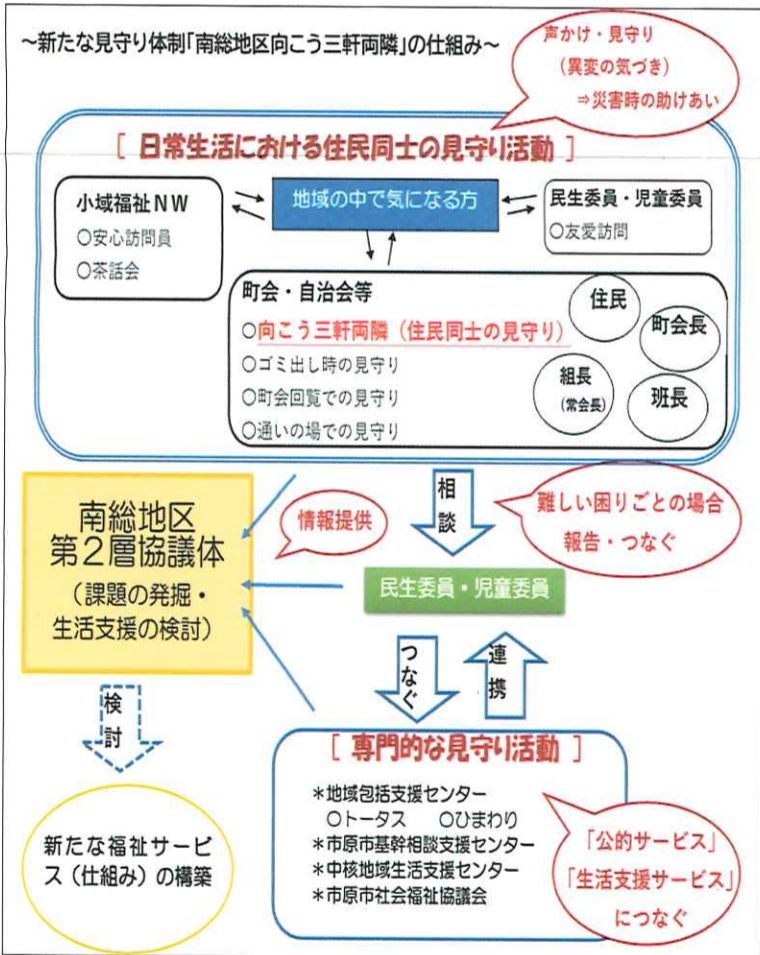
最大限の注意を払いながら
 健康な日常生活を取り戻すべ
 きでしょう。

南総地区社会福祉協議会
 はコロナ前同様とはいかなく
 ても皆様の健康で快適な生活
 が送れるよう努力してまいり
 ます。

本年もどうぞよろしくお願
 い申し上げます。
 (会長 児井 敏雄)



ふれあいいきいきサロンも感染予防対策をして
 (南総公民館)



新たな見守り体制 「向こう三軒両隣」

南総地区第2層協議体

南総地区第2層協議体
 では平成三十年より
 「地域包括ケアシステム」
 の構築に向け、検討を進
 めてまいりました。

その第一歩として、来
 年度より「南総地区向こ
 う三軒両隣」(住民同士
 の見守り)という取組み
 を提案しております。

これは、住民同士が日
 常生活の中でお互いを気
 にかけて、見守り合うこと
 で、介護予防や生活支援
 も視野に入れた地域の支
 え合いに繋げていく仕組
 みです。

現在の見守り体制は、
 民生児童委員の方や小域
 福祉ネットワークの安心
 訪問員の方々による、見
 守りを希望する方への活
 動が中心となっております。

今後さらに高齢化が進
 んで、見守り支援を必
 要とする方はますます増
 える予測され、公的サー
 ビスでは対応できない問
 題も生じてくると思われ
 ます。

そこで支援の輪を広げ
 るために「向こう三軒両
 隣」の考えで近所同士で
 見守りあつていただきた
 いのです。

そしてもし、ちよつと
 気にかかる様子を感じた
 ら組長、班長、あるいは
 町会長などと相談の上、
 地区社協にご連絡くださ
 い。安心訪問員、民生児
 童委員あるいは包括支援
 センター等の専門機関と
 連携し、問題解決に繋げ
 てまいります。

すでに良好な近所付
 き合いをされておられる
 地区もあると思えますが、
 お隣同士声を掛け合っ
 て、挨拶のできる関係から始
 めていただきたいと思っ
 ております。

(代表 児井 敏雄)

賛助会費

南総地区社会福祉協議会

南総地区社会福祉協議会
 は、平成二十八年度から賛助
 会費へのご協力をお願いして
 おります。

本年度はコロナ禍にも関わ
 らず、多くの個人、企業、団
 体の皆様からご支援いただき、
 十二月末現在百四万四千三百
 円となりました。ご厚意に深
 く感謝申し上げます。

ご協力いただきました賛助
 会費は、地区社協の独自事業
 推進のための貴重な財源とし
 て有効に活用させていただきます。

今後増大する地域福祉課
 題に對し、各種団体のご支援、
 ご協力の下、南総地区で安心
 して暮らせるまちづくりの構
 築に努めてまいります。

これからも地区社協運営に
 ご理解・ご協力をよろしくお
 願いたします。

令和2年度南総地区賛助会費実績報告 (R2, 12月末現在)

区分	協力者数	金額
個人	75件	704,000円
団体	53件	340,300円
合計	128件	1,044,300円

表彰おめでとうございます

千葉県社会福祉協議会会長表彰
 市原市青少年育成市民会議功労者感謝状
 戸田地区小域福祉ネットワーク
 オレンジ隊

多年にわたり青少年育成市民運動の推進
 に寄与されました

小泉 渥美さん (米沢)

安藤 和子さん (池和田)

高山 良明さん (下矢田)

志村 絵美さん (皆吉)

多年にわたり民生委員・児童
 委員の活動に寄与されました



トピックス

平三地区 小域福祉ネットワーク

天気が良ければ畑へ

好きなこと・楽しいことをいつまでも

平三地区小域福祉ネットワークは、住民が『支え合い・助け合い』の仕組みを作り、暮らしやすく、安心して生活できる地域社会づくりを目指しています。当地区では少子化と高齢化そして過疎化が確実に進行しています。それは、家族形態が核家族化しており、生活は便利になりましたが、考え方の多様化により地域からの転出は防ぎきれませんでした。これらが、ネットワークの目指すものが生じた所以です。住民の多くは還暦後の方々となり、八〇代、九〇代の方も多いためです。長生き時代です。

そこで、『見守り部会』が高齢化、独居化する方たちを支援することを主目的として活動しています。部会は、隔月で集まり担当している高齢者を訪問した状況について報告し合っています。その中で「お元気で、畑仕事をしてもらいました。」という報告が多くあります。また、手押し車を押しながらも畑に行き「これくらいは事しかできないが」と枯れた草を片付けていた方もいたそうです。『畑

の魅力』はすごい。

皆さん方楽しそう、生き生きしているんですね。若い時に、夫婦で耕し、種をまき、育て収穫した畑だからなおさらでしょう。部会員からのお元気で、と報告を受けた時こそ、その元氣（幸せ）の源をどう長続きしてもらえんのか、今後の課題だと思っ

（会長 金高 元郎）



子ども部会の芋掘り大会

鶴舞地区 小域福祉ネットワーク

鶴舞の三イルミネーション 年末の町内を明るく照らす

コロナウイルスの流行が拡大して、行動が制限されたり景気が下降するばかりの、今日この頃ですが年末を迎えて、鶴舞一三町会を明るくする活動が行われました。

地区町会のボランティア四団体と東京の若者の一団体が共同して、三方所にイルミネ

ーション点灯やイベントを行って、多くの人たちを楽しませてくれました。

小湊鉄道の鶴舞駅では、鶴舞活性化ネットワークと踊りの会、東京の若者が作る「のろし」が、鶴舞小学校では町内の有志九名、バスターミナルは運営協議会の方々が十一月下旬から十二月下旬までの間、飾りの設置と運営を行いました。

鶴舞駅では「のろし」の、若い方たちが駅員室と待合室に市原市や鶴舞を紹介する写真展と広場でペンライトを振って写真撮影を楽しむ光文字アートや駅舎の壁に映像を投影するプロジェクトを企画し、訪れた人たちが楽しんでいました。このよう

な催しは、今年三月のアーTomixクスでも更に拡大した内容で実施する予定です。高齢化と人口減少が進んでいる地区を活性化する各団体の取組みを応援するとともに、広くPRを行って多くの方に参加を呼びかけてゆきたいと思

（副会長 大井 守）



上総鶴舞駅のイルミネーション

戸田小学校区 小域福祉ネットワーク

表彰された「オレンジ隊」

双葉中学校の教育環境を憂慮した戸田地区町会長の伊藤会長は、環境を変えていくために自分たちにもできることはないかと考え、「戸田地区小域福祉ネットワーク」の会員と光風台地区に協力を呼びかけました。

そして、「生徒とあいさつをすることから始めようと平成二十二年八月一日に会員八名でオレンジ隊として活動を開始しました。現在は会員数三一名で活動しています。

【主な活動】

- ・戸田小学校登校時の見守り
- ・双葉中学校下校時の声かけなど

歳末助けあい募金を実施しました

今年度の社協行事として歳末助けあい運動「福祉バザー」を企画していましたが、今般の新型コロナウイルス感染拡大の懸念から中止とし、

「歳末助けあい募金」のみ実施させていただきました。

各町会長の方々のご尽力と地域の皆様のご厚意により下記のように多額の募金をお寄せいただきました。ありがとうございます。

歳末助けあい運動は生活にお困りの方々の福祉サービスとして途切れることなく続いてまいります。皆様のご厚意は援助を必要とされている方や地域福祉のために活用させていただきます。

令和2年度南総地区歳末助けあい募金実績報告

748,490円



研修会実施報告

令和二年十月二十六日に南総公民館にて、南総地区社会福祉協議会主催の研修会を行いました。

この日、評議員や地区社協の事業に関わっている四一人が参加し、三和地区社会福祉協議会の安藤会長とたすけあい支援部長の二田口氏から、「たすけあい三和」についてのお話を伺いました。

南総地区社協でも、今後、南総地区における日常生活支援事業について検討していきたいと考えます。

なのはな館情報

なのはな館は開設から間もなく丸六年を迎えようとしています。

少しずつ地域の皆様に認識いただいているところですが、まだ「近くにあるのに知らなかった。」「建物は知っていても中に入ったことがない。」という声も多く聞かれます。

なのはな館は地域福祉センター、老人福祉センター、児童館が併設された、地域福祉と市民の健康増進を目的に作られた公共施設です。

館内には会議室や多目的室、調理実習室もあり、市民に貸出しております。また、歩行プールや健康増進のためのマシンなど、様々な設備があります。

施設の概要や設備等については「市原市公共施設予約システム」または「市原市社会福祉協議会」のホームページでご確認ください。

（なのはな館 九二一―四八二）

編集後記

お悔み
本会理事の吉田久子さんが令和二年十月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

今年の春・夏は、コロナ禍で季節を味わうゆとりがなかった。秋になりようやく関心がむいた。澄み切った空・スキの波・お茶の花と初冬の季節は巡っていた。

春からの新型コロナ対策として、手洗いの励行・マスクの着用・三密を避けること・ソーシャルディスタンスと自己にできることはやってきた。家人も週一回の買い物心がけてきた。

しかし、新型コロナという正体の見えない相手なので緊張の持続が必要だが、

編集委員

- 河津 敏郎 (内田)
- 伊藤 陽子 (寺谷)
- 加藤 功 (牛久)
- 大井 守 (鶴舞)
- 金高 義幸 (平三)
- 牧野 雅夫 (社協)